

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校

校長 大塚 潤

文化の日に当たって

桜中文化をすすめるよう



おいしいハンバーグのできあがり

11月3日は「文化の日」でした。「子どもの日」や「敬老の日」「勤労感謝の日」と違い、なかなか説明するのが難しい日ですが、皆さん、説明することはできますか。

「文化」とは、簡単に言えば「国民の祝日に関する法律」という法律で決められています。その法律には「文化の日」は「自由と平和を愛し、文化をすすめる」と書かれています。「自由と平和」は何となく分かると思いますが、「文化をすすめる」とはどのようなことでしょうか。

「文化」とは、簡単に言えば「人間がつくりあげてきたもの」です。建物や料理、ゲーム機などのものはもちろん、音楽や挨拶などの形がないもの、そして人の考え方も「文化」です。

このような、人々がつくってきたことに感謝しながら、「みんなが毎日安全で楽しく、自由に暮らせることを大切にしましょう」という日です。

そして「文化の日」は、法律の大本である「日本国憲法」が発表された日でもあります。授業でも憲法についてすでに学習したと思いますが、「自由と平和」を大切にすると言うことは、憲法に出てくる「基本的人権の尊重」にも大いに関係があると思うてください。いじめをしない・させない・見逃さない桜中文化をすすめてみましょう。

また、「伝統文化」という言葉も聞いたことがあると思います。日本には、昔から伝わる文化があります。折り紙やけん玉はもちろんです。若宮神社の子供神輿・落語や歌舞伎、和太鼓や琴の演奏、習字やそろばん等々。

ぜひ、「文化の日」でなくとも博物館や美術館に行くなど、伝統文化や日本の文化について調べたり、触れたりする機会をたくさんつくってほしいと思います。

合唱コンクールも本校が誇る文化の一つです。

ぜひ、自分自身の頑張りを振り返りながら、佐藤先生の感想を読んでください。

合唱コンクールを振り返る

佐藤 えりか
私は去年はじめて教壇に立ちましたが、とても嬉しいことがありました。それは、桜中生のみなさんは、いつも元気な声で歌を歌ってくれることです。「歌ってと言えれば歌ってくれるそんな幸せを毎日噛みしめながら過ごしています。」

私は、1年生の学年練習の中で、誰一人として嫌な思いをしない合唱をつくってほしいと話しました。歌うことが好きな人も、苦手な人も全員がステージ立って、一緒に何かを創り上げることが体験してほしいからです。

1年生は混声三部というはじめての合唱に苦戦しており、練習も上手にいかないことがあったと思います。それを変えてくれたのが縦割り練習での2、3年生の歌声です。「先輩のようになりたい」という憧れが歌声を揺さ

ぶる原動力になり、1年生をより本気にさせてくれました。いい合唱にするためには、自分の声を周りに伝え、自分も周りの声を聴こうとしなければなりません。目標となる合唱に近づくために、各学級で意見を出し合いながら練習したことが学級の団結を深めたように思います。

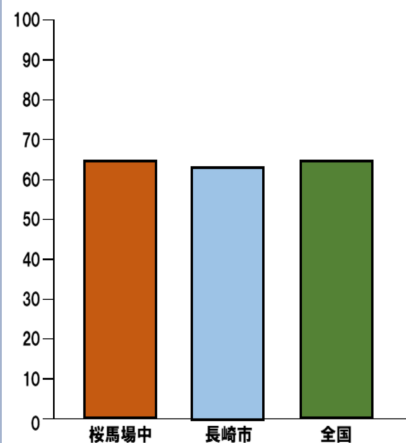
期末テストの準備を始めよう

	1校時	2校時	3校時	4校時
◆11月14日(火)				
3年	国語	社会	数学	英語
◆11月15日(水)				
3年	英語	保体	理科	
◆11月21日(火)				
1年	理科	社会	数学	技家
2年	社会	理科	数学	技家
◆11月22日(水)				
1年	英語	保体	国語	
2年	国語	英語	保体	



まで積み上げてきた努力の成果が詰まった演奏だったと思います。来年は先輩として迎える合唱コンクールにこの経験を生かしてもらえると嬉しいですね。今年の合唱コンクールが、何年、何10年後かにみなさんやご家族の大切な思い出話となることを願っています。たくさんのご感想をありがとうございます。

長崎県学力調査 数学（1年生）



【1年数学】

■市の平均を上回り、全国の平均をやや下回っている■

【現状・課題】

○数と計算、図形、変化と関係の領域の正答率は、全国平均と同程度である。

○データの活用領域に関しては、全国平均を下回っている。

○問題から必要な情報を整理し、筋道を立てて考え、説明する問題に課題がある。

【伸ばしていきたい力】

○問題理解を行い、数学を用いて課題を解決しようとする力。

○数学を用いて、自分の考えを表現する力。

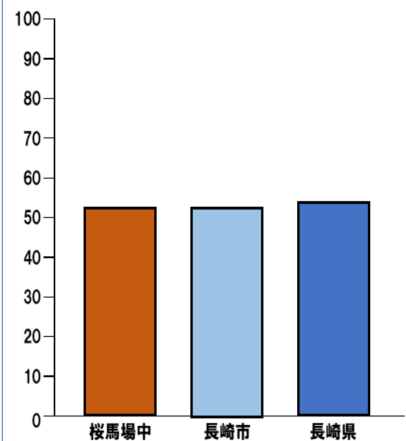
【そのために具体的取組】

○事象を数学として処理し、自分の考えを自分の言葉で表現する活動を仕組む。

○AIドリル「キュービナ」を用いて、基礎基本の定着を図る。

○内容のまとまり毎に、学習したことを自分の言葉で振り返る活動を仕組む。

長崎県学力調査 数学（2年生）



【2年数学】

■県、市ともに平均をやや下回っている■

【現状・課題】

○領域別にみると「図形」「データの活用」は県平均を上回っているものの、「数と式」については課題が見られた。

○「関数」については、比例・反比例ともに、 x と y の関係を正しく理解できており、式に表すこともできる。

【伸ばしていきたい力】

○基本的な計算技能（正負の数、文字式、方程式）

○関数における表・式・グラフの関係を整理し、まとめる力

○問題解決の方法を数学的根拠をもとに説明する力

【そのための具体的取組】

○章が終わるごとに章末テストを実施する。

○テストの訂正ノート作成によるまとめる力の育成する。

○名詞や数字で答えるのではなく、方法や筋道を説明できる力を授業を通じて育成する。

学力調査結果と分析 その2

長崎弁は私たちの文化

僕の姉は、県外の大学に通っています。彼女はよく、友達から長崎弁について聞かれるそうです。それは、僕たちが話す言葉に魅力あるからだと言っているでしょう。そこで、僕が特に魅力があると思った長崎弁を紹介します。

1つ目は、「なんしょと?」です。これを使ったことがない人はいないでしょう。今の若い人たちは方言を使う頻度が少なくなっているように感じます。しかし、この言葉はいつまでも使い続けられるでしょう。なぜなら、僕たちが小さい頃から使っている言葉だからです。また、言葉の間に「ば」をつけることで、より長崎弁っぽくなります。例えば、「それば取って。」や「あれば見て。」などです。ぜひやってみてください。そうすれば長崎弁が話せるようになります。

2つ目は、「やぜか」です。友達や家族に、悪ふざけをしたら、必ず相手から「やぜか」と怒られます。この言葉は長崎でしか使われていません。つまり、この言葉を使っておけば、長崎県民になったと言っても良いでしょう。みなさんも、お気に入りの長崎弁を見つけて見てください。ふるさとの言葉や方言を知ること、自分の街の文化をより深く知ることが出来ると思います。

他の国や町にも素晴らしい方言があります。それらはそこに住む人々のアイデンティティの一部であり、文化の一部でもあります。しかしながら、世界には他の国や町の文化を攻撃し、侮辱する人々がいることも事実です。僕たちはそのことを容認してはならないと思います。どんな国や場所にも尊敬と受容があるべきだからです。加えて、他国の伝統文化やさまざまな言語について、自分たちで調べることも必要です。そうすることで、自国の文化や伝統だけでなく、他国の文化や伝統を守り、大切にする方法も知ることが出来ると思います。それが、この世から争いをなくすことにつながるはずです。

最後に、僕がみなさんに紹介する長崎弁は、「よかよか」です。「よかよか」は、お互いを励まし合うマジックワードです。「よかよか」をたくさん使って、みんなで仲良くしましょう！ 1, 2, 3, 「よかよか！」

前号に引き続き、今回は日本語訳を掲載します。ここにも「文化」という言葉が登場します。

三浦君 奨励賞を賞

